

2019年度 **あすなろの家** 事業計画

— 目 次 —

1、法人理念	1
あすなろの家理念・基本方針	2
2019年度重点課題	3
2、特養・ショート部門	
特養（ロング）	6
ショート	7
3、在宅部門	
デイ	8
ヘルパー	9
4、ケアハウス	10
5、居宅介護支援・支援センター	11
6、厨房	12
7、目標数値・事業計画一覧表	13

1、清水あすなろ福祉会 理念

一、すべての子ども、障がいのある人、高齢者が健康で文化的な生活がおくれるよう、地域の人々と力を合わせて、地域福祉の充実と向上に努め、施設として可能な限り必要な支援を行ないます。

二、子どもたちが集団の中で、一人ひとりが大切にされ、高齢者や障がいのある人も一人の人格として尊重される施設運営をめざし、常に努力します。

三、利用者・職員・地域住民・関係者の協力を基礎に健全な財政の確立に努め、一人一人の意見を大切に
する民主的な運営・経営を行ないます。

四、公的な責任と共同の力で、だれもが、必要なときにいつでも利用できる福祉施設の実現をめざし、
広範な人々と協力します。

あすなろの家 理念



3つのキラキラ笑顔をつつ 「夢・挑戦・勇気」

1つのキラキラ笑顔

⇒ あすなろの家に集うご利用者、ご家族の「笑顔」をたくさん見たい！「笑顔」でいてほしい！！

2つのキラキラ笑顔

⇒ あすなろの家を支えてくれている地域の皆さん、ボランティアの皆さんの「笑顔」をたくさん見たい！
「笑顔」でいてほしい！！

3つのキラキラ笑顔

⇒ あすなろの家を動かす職員の「笑顔」をたくさん見たい！「笑顔」でいてほしい！！

キラキラ笑顔、単なる笑顔ではなくキラキラ笑顔。

創られた笑顔ではなく、心が動いたときに出てくるようなとびきりの笑顔。

心が動く、そんな容易なことではありません。「あすなろの家」は人と人とがふれ合う場所。

心と心でふれ合うことが出来たら、キラキラ笑顔を導き出すことが出来るのでは。

そんなキラキラ笑顔が3つ合わさった時、私達が目指す「あすなろの家」が出来上がるのではないかな。

もちろん、笑ってられる時ばかりではありません。ただ、そんな時も心に寄り添っていつか笑顔になってほしい。

ご利用者・ご家族・地域・職員、皆がキラキラと笑ってられる、そんな「あすなろの家」にしたい。
そんな思いが込められています。

私たちはこのような大きな「夢」をもち、「夢」に向かって、多くの「挑戦」をしていくことになるでしょう。その「挑戦」の中で変わっていく「勇気」、決断する「勇気」、伝え合う「勇気」を持っていきたい。
3つのキラキラ笑顔を見るために…

あすなろの家運営・経営の基本方針

- 一. ご利用者の生活の質を向上させる専門性の高い介護の提供を行います。
- 二. ご利用者と気持ちが通じ合う介護を行います。
- 三. ご利用者のご家族とのつながりを大切にします。
- 四. ご利用者に安全で気持ちよく生活して頂ける環境を提供します。
- 五. ボランティア、地域との交流を積極的に行い、施設機能を活かした地域支援に取り組みます。
- 六. 職員は『素直な姿勢』、『謙虚な姿勢』、『努力する姿勢』を持ち続け、視野を広げ、豊かな人間性を築くよう自己研鑽します。

施設本来の役割は、困っている方々の「最後の駆け込み寺」または「セーフティーネット（網の目のように救済策を張り、生活全般として安全・安心を確保し、提供できる安全網）」であり、その存在自体が地域での生活を保障するものであると考え、上記六つの基本方針のもと、社会がどんな情勢になろうが、地域社会との調和を大切に、いつしか地域に無くてはならない存在になります。

2019 年度重点課題

挑戦 ～これまでの全てを超える～

平成 30 年度力を入れてきたこと

本物のケア

- …E S Rが中心となりあすなろの家の本業である「介護」「介護知識」のレベルを上げていくこと、また介護職ではない職員についても各々が担う役割についての専門知識、技術を身につけていくこと。
- …自立支援介護の知識を活かし、お年寄りの力を引き出すケアの提供。

本物の接遇力

- …「丁寧な対応」相手の事を大切に想い感動を生み出す対応を。
誰に対してもどのような場面でも相手の事を大切に想い行動すれば、それは相手に周りに伝わり、温かい気持ちと呼び起こす、感動を創り出すことを目指し☆1委員会が中心となり、あすなろの家でふれ合う全ての人が一瞬でも温かい気持ちになって頂けるよう取り組みを進めてきた。

本物の繋がり～地域と繋がる～

- …行政が示す地域包括ケアシステム、社会福祉法人の役割等も念頭に置き、
「あすなろの家がいつしか地域に無くてはならない存在になること」
「あすなろの家がここにあった！と地域の方に感じて頂くこと」を目指して、まずはあすなろの家を知って頂くための取り組みを行ってきた。

私たちが

- …あすなろの家を実際に動かしているのは私たち職員。ご利用者と関わっている職員、調理を行っている職員、来客者の対応をする職員、掃除等を行う職員、職員の働きやすい環境を整備する職員、それぞれ担当は違うがそこで働く私たち職員がこのあすなろの家がやりたいことをきちんと理解し、その為に何をしていくのか、何をしていきたいのかをじっくり考えて行動していく。
主任が中心となり、「私たちが」ってどういうことなのか？を掘り下げて考えてみる場面を作ったり、自分たちでこうなりたいと考えた成長支援シートを元にミーティングを通し考える場面を増やす等行ってきた。

2019 年度

あすなろの家の進む方向は大きくは変わらない。

今年度も「本物のケア」「本物の接遇力」「本物の繋がり」「私たちが」を掲げ事業を進めていく

今後の介護保険行政の動向として「自立支援、重度化防止」「地域包括ケアシステム」「社会福祉法人への重度化、認知症等への対応、地域貢献等の要求」等があげられるが、どれも、今まで私たちが掲げて行ってきたこの4つを大事に育てていけば、十分対応していけるものだと考えている。

本物のケア

私たちが最も高めていかなければいけない専門知識、専門技術の習得に努力を惜しまず、ハイレベルな職員集団になっていくことでご利用者を笑顔にしていくことを目標とする。

介護技術について、どうしたら介護職員に技術が身についていくのか、ESR中心に委員会形式等の活動も模索していく。介護職以外の職員についても、それぞれの専門性をどう高めていくのか、計画をたて取り組んでいく。

また、あすなろの家の看板、または武器である「自立支援介護」については特養のオムツゼロを達成！その知識と技術を在宅、地域へ還元していく流れを強化していく。具体的には、在宅サービス利用者への自立支援介護提供の実践、地域への自立支援介護の説明会・勉強会開催、在宅入所相互利用の活用・普及…あすなろの家でこれまで培ってきた力を外へ発進していく！

本物の接遇力

丁寧な対応 ～観る・聴く・感じる・読み取る・話す・伝える・察する・想像する・気づく～

相手の事を大切に想い感動を生み出す対応を。

あすなろの家でふれ合う全ての人が一瞬でも温かい気持ちになり笑顔が増える事を目標とする

これまで 言葉に気をつけましょう → 言葉に気持ちを乗せてみましょう → 言葉だけではなく感動を生み出す対応をしましょう と接遇力を高めてきた。まだ時々残念な場面も見受けられるが、全体としての意識は確実に高まってきている。

これからの接遇力は？

これからは今まで育てた基礎的な接遇力は継続しながら、時代の流れと共に変化していく、ご利用者や地域、社会が求める接遇はどんなものなのか？ということを感じ取り、敏感に対応していくことに意識を持って行く必要があるのではないかな。そんな視点を持ちながら、接遇面についても考え変化させていく。

「あすなろの家に行くと、なんだか気持ちいいよね」「あすなろの家にいると、気分良くなるよね」

そんなことをたくさん言ってもらえるような、あすなろ接遇力を育てていく。

本物の繋がり～地域～

「あすなろの家がここにあって良かった！」と地域の方に感じて頂き、地域の皆さんの笑顔が1つでも増えていくことを目標とする。

今までは、まずはあすなろの家の事を多くの方に知ってもらおう！とS型との交流、参観会、納涼祭等様々な活動をすすめてきた。

今年度も引き続き、地域と繋がる努力をすすめていくのだが…職員一人一人が考えてほしい。

地域って何？地域と繋がるってどういうこと？？なんで地域と繋がるのだろうか？？

それから、あすなろの家のことを知ってもらってどうしてなのだろうか？あすなろの家のことってどんなことを知ってもらえばいいのだろうか？

これらを深く考え、職員で話し合い、地域と繋がるための取り組みを大切に育てていく。

私たちが

「ケア」「接遇」「地域」どの項目についても、これまでの継続であり、方向性に変わりはない。しかし、今年度は全ての項目で、「これまでの全てを超える！」ことにこだわっていきたい。

同じことの継続なのではなく進化、深化していくこと

そのために必要なことは、この 私たちが だと考える。

職員一人一人が、主体性のある職員へと成長していくこと。なんとなくではなく、なぜこういう取り組みをするのか、なぜ接遇力？なぜ本物のケア？なぜ地域？なぜわくわくタウン？なぜ在宅入所相互利用？

あすなろが動こうとしている目的を皆で考え、理解し、そこに職員の「もっとこうしたらよくなるんじゃないの！」「このほうが楽しいよ！」というアイディア、あそび心というスパイスを加えてもっと素敵なあすなろの家を作っていく！そんな1年にしていきたいと考える。

また、職員が社会人として「働くこと」についても考えることのできる機会を作り「働き方」を見直していくことも取り入れていく。

私たちが考え、私たちが「本物」を作っていく。

やるのは誰かではない、私たちです。

以上項目に分けての課題とはなっているが、どれも単独なものではなく全てが絡み合い、全てが実現できることで、理念に近づくものである。

どの項目もまだ完成はしていないけれど、これまでに職員皆で養ってきた培ってきた「あすなろ力」「あすなろ魂」は確実に育ってきている、今年度は、その力を土台として新しい挑戦を試みたい！あすなろの家が向かいたい夢に向かっての第一歩、二歩になっていく為の挑戦！さあ動き出しましょう！！

これらの目指すものを一緒に実現していくためにあすなろ職員に持ち続けてもらいたいもの

「素直な姿勢」「謙虚な姿勢」「努力する姿勢」 一緒にがんばりましょう！！

2、特養・ショート部門

特養（ロング）

《基本方針》

笑顔のために ～いつまでも元気に過ごす～

《将来像》

専門性の高い職員を育成し、理論に基づく介護を提供していくことで、ご利用者自身の力を最大限引き出し、自立した生活を送ることができる施設

「行きたいところへ行く」「食べたいものを食べる」「トイレで排泄する」

そんな当たり前が実現できる施設

重点課題《本物のケア、本物の接遇力、本物の繋がり、私たちが》

あすなろの家で働く職員として理念を実現することを意識する。そのために『あすなろの家が行おうとしていることは全て理念に向かっているということ』を理解、納得、共感する努力をする。そして、業務をこなすだけでなく、なぜ？と疑問視すること、そして考える、今年度はさらに考えたことを発信、実践するというところに力を入れていく。

昨年度、オムツゼロを達成。今年度も自立支援介護の基本の4つのケアを行い、データなどをもとに、理論的根拠に基づいたケアを行いオムツゼロの継続をする。そのために、今いるご利用者はPDCAサイクルで統一したケアを行い、新規ご利用者はすぐに自立支援プランを立て自立支援介護を行い元気になって頂く。

そして今年度はレベルを一つ上げ認知症ケアに力を入れていく。認知症の高齢者は、状況が正しく認知できず、混乱し、強い不安の中に置かれ、孤独感と怯えを持ちながら暮らしている。私たちの知識技術により、その辛い日常から、楽しく笑顔でいられる日常へ変えていく。さらに今までは身体的な自立を失ったことで施設へ入所、低下していくことが一般的だったが、あすなろの家ではQOL向上、身体的自立をすることができる。自立支援介護が提供できることでお年寄りを元気にして在宅へ帰すという『在宅相互利用制度』に力を入れていく。この制度を充実させていくことで、いつまでも住み慣れた自宅で生活することができるようになることを考えている。あすなろの家で行っているケアを自信を持って職員が地域へ発信し、地域へ還元することで地域を元気にしていく！

その他にも、利用者の希望を汲み取った外出の実施、誰に対しても気持ちの良い対応、気持ちよく過ごしてもらえる環境作りをすすめる。また、職員の業務についても見直し修正を繰り返し、勤務時間内に終了する業務、勤務時間に終了しようとする職員の意識を作り上げる。

☆挑戦☆

- ・認知症ケアを強化し、家族と繋がっている安心感を
- ・在宅相互利用制度を強化し在宅生活継続へ繋げる(ベッド2床へ)
- ・あすなろの家入所ご利用者の平均介護度を下げる

ショート（短期入所生活介護）

《基本方針》

自立支援介護で住み慣れた家、地域でいつまでも元気に！！

自立支援介護で家族をサポート、バックアップ！！

《将来像》

あすなろの家のショートに行けば元気になれる！

家族、地域に頼ってもらえる。無くてはならない事業所になる。

重点課題

《本物のケア、本物の接遇力、本物の繋がり、私たちが》

あすなろの家で働く職員として理念を実現することを意識する。そのために『あすなろの家が行おうとしていることは、全て理念に向かっていること』を理解、納得、共感する努力をする。そして、業務をこなすだけでなく、なぜ？と疑問視すること、そして考える、今年度はさらに考えたことを発信、実践するという事に力を入れていく。

あすなろの家ショートステイの役割は、「レスパイトケア」だけではなく、自立支援介護の基本の4つのケアを行い「自分でできることを取り戻して頂くこと」「元気になって自宅へ帰って頂くこと」であり、在宅で自立支援介護を取り組む際の要となるサービスである。

ロングショートの利用者は、アセスメント、モニタリングをきちんと行い、特養入所者と同様、積極的に自立支援介護ケアに取り組みADLを上げていく。ショートから特養入所する予定の利用者は、自立支援介護ケアを確立し特養へ繋ぐ。退院後のショートは自宅への架け橋となるため、集中的にケアを行い自宅へ戻れるレベルまでケアしていく。在宅相互利用の利用者は4Gと統一したケアができるように情報を共有し、在宅生活継続を支援する。その他のショート利用者は、ショートで行っているケアを軸に家族、ケアマネ、他サービスと協力して自立支援介護を提供しご利用者を地域で元気にしていく。

その他に、誰に対しても気持ちの良い対応、特に新規利用者には面接時に介護職員がなるべく同行し、顔見知りになること、直にお家での生活を知ること、安心して過ごしてもらい環境を作っていく。また、忘れ物、紛失について、時間内の業務終了について問題意識を持ち、見直し修正を繰り返し改善していく。

☆挑戦☆

- ・自立支援型ショートステイを深化させる。パワリハ、外への歩行を取り入れ運動強化
眠剤、下剤廃止
ご利用者の個々の願い（外出、買い物、自宅で生活したい、好物を食べたい）をたて、元気になったらショート中に願いを叶える
- ・地域の方、他事業所等へ向けた「ショートの自立支援介護成功事例発表会」を、会場を借り開く

3、在宅事業

デイサービス

《基本方針》

SHIGOTO わくわく！あすなろタウン

誰かから必要とされること、誰かの役に立つこと、誉められること

それは生きていく喜び！！

ご利用者がいつまでも自分として自分の力を発揮して輝いていただける場所

あすなろタウンに来ている事で、何かわくわくする！生きがいを感じられる場所

ご利用者一人ひとりが主役になれる町を！

職員一人ひとりがわくわくすることに挑戦できる町を！

《将来像》

自立支援介護をより充実させ、ご利用者の力を引き出すケアの提供ができるデイサービスとなる。あすなろのデイを利用しながらの生活でご利用者が元気になり、1日でも長い在宅生活を支援するための拠点となる。

重点課題《本物のケア、本物の接遇力、本物の繋がり、私たちが》

あすなろの家のケアの柱である「自立支援介護」あすなろの家特養の実践を通し「介護の力でお年寄り元気になる！」ことを実感。その自立支援介護に関する知識、技術を活かして地域のお年寄りも元気にしていきたい！デイサービスとして新しくスタートしている『SHIGOTOわくわくあすなろタウン』、自立支援介護で体を整え、SHIGOTOにより誰かに必要とされているという生きがい、精神面のフォローを行い、パワリハを用いて筋力維持を。なんとなくではなく、それぞれの取り組みに意味を持たせ、実際作り上げていく私たち職員が話し合い、勉強を繰り返し、理解を深め進めていく。

接遇面については、丁寧語、丁寧な対応は当然継続していくが、実際、ご利用者のご家族が地域がどんな接遇を求めているのか？デイサービスとして差別化を図る必要は？一方的なものではなく、相手の事を想った気持ちを乗せた接遇力を作っていく。

☆挑戦☆

- ・ご利用者、職員が生き活きと活躍できる活気あふれる『あすなろタウン』を作り利用率アップ！
- ・地域の方たちが参加体験できるイベントを開催し、気軽に来てもらえる場所としてのアピールを！

ヘルパー（訪問介護事業所）

《基本方針》

寄り添うこと から

ご利用者、ご家族のこれまでの生活、これからの生活、いろいろな思いに「寄り添う」ことからヘルパーの仕事は始まる。そして寄り添い続けたい…

- ・「いつまでもこの家で自分らしく暮らしたい！」そんな当たり前の思いを支えたい
- ・たくさんの「和」を作りたい

～ご利用者との和、ご家族との和、地域との和、職員同士の和、信頼の和、明るい和～

《将来像》

在宅介護での認知症含めた重度化が予想される。在宅に居ても施設と同じようなサービス提供が可能な事業所づくりをすすめる。また、自立支援介護の技術も身に付け「地域のお年寄りにも最期まで満足した生活を送って頂く」ことを他のサービスとも連携し実践していく。

重点課題

《本物のケア、本物の接遇力、本物の繋がり、私たちが》

基本的な介護技術、自立支援介護の知識技術習得については施設の取り組みに沿って行く。ヘルパー独自の調理や買い物等の家事に関する基本的知識や特別な環境の中での介護技術については、ESRに協力依頼をし、ヘルパー独自の研修会を開きヘルパーとしての技術レベルを上げていく。在宅ご利用者への自立支援介護提供はヘルパーとしての役割、ご利用者の自宅での様子が一番よくわかる立場にいる事を自覚し、ケアマネ、他サービスと連携し取り組みを進める。

接遇については、今までの丁寧語丁寧な対応は継続。ヘルパーは地域に一番近い場所で動いている。あすなるの家の看板を背負って仕事をしているという強い意識を持ち、ヘルパーの一言一句、一挙一動で相手の心を癒やすことができるような対応を行い、アンケートなどで浸透具合をチェックする。

繋がりについて、今年度は地域と繋がるということがどういうことなのかを考えること、そしてヘルパー独自のイベントを開き「あすなるの取り組み」「ヘルパーの活動」「ヘルパーの魅力」を地域へ伝えていく。

私たちが取り組んでいく全ての事に、なぜこういう取り組みをするのか…もっとうしたら…こうしてみよう！一人一人が考え動いていくチームとなる。

☆挑戦☆

事業所チーム全体で新しいヘルパーイベントに挑む

イベント目的

一人でも多くの地域の方々、ご利用者、ご家族にヘルパーの仕事の魅力を発信すること

4、ケアハウス

《基本方針》

「安心できる住家でありたい」を目標に、何を求め、何をしていかなければいけないかをご入居者と職員が一緒に考えていけるケアハウスでありたい。

それぞれに年齢、生活習慣、生きてきた環境が違う 30 名が少しずつ歩み寄り、交流の場である行事に多く参加し、お互いを理解し支え合いながら安心、安全な生活が送れるケアハウスを作り上げていくことを目指していきたい。

また、ケアハウスしみずが施設全体の中でもっと浸透し、ケアハウスしみずのご入居者の認知度を高める仕組みや取り組みを行っていく。

《将来像》

- ・ケアハウス入居の条件をケアハウスしみず独自で作し、自立可能ではあるが将来的、経済的に困っている高齢者を対象とした軽費老人ホームにしていく。
- ・自立支援介護の基本をケアハウスご入居者にも浸透させ、ご入居者が地域に発信できる活気のあるケアハウスをつくる。

重点課題 《本物のケア、本物の接遇力、本物の繋がり、私たちが》

ケアハウスご入居者の将来の不安を取り除き、生きる希望を増やせるように、「最期まで自分の事を自分で言い、自分の足で歩き、自分で食べる」という自立支援の取り組みを行う。ご入居者全体に向けた水の大切さ等の勉強会や、支援が必要になりそうなご入居者に向けての集中ケアやデータ管理を行い、ケアハウスで生活できる力を維持していく。

接遇面では、「安心した生活」をご入居者に送っていただくために、当たり前のことではあるが、目を見て話を聞くこと、最後まで話を聞くことを実行、定期的に職員間でチェックを行う。生活面での困りごとはないか？身体面での不安はないか？を会話の中で見つけ出せるような丁寧な対応、接し方をする。そしてあすなろの家に関わる全ての方への丁寧な対応も継続する。

ケアハウスを地域に知ってもらうこと、施設全体の取り組みや、地域行事への参加を通して積極的に地域へ伝えていく。また、ケアハウスの行事に地域の方が参加して頂けるような企画を実行する。ケアハウスが地域の方々の交流の場として新しい役割を作っていく。

ケアハウスご入居者が最期まで元気に生活するためにはどうしたらいいか？小さな変化に気づく力、できなくなる前にサポートする力を職員が身につけ、それが自分たちの仕事なんだという認識を持つ。「ケアハウスで生活ができてよかった」とご入居者に感じて頂けるケアハウスを職員が作っていく！！

☆挑戦☆

- ・ケアハウスご入居者 30 名の自立支援のデータ管理（水分・食事・歩行・排泄）を始める
- ・年間 3 回以上、地域の方も参加できる行事を実施する

5、ケアマネ（居宅介護支援）・在宅介護支援センター

《基本方針》

「できる限り在宅で自立した日常生活を継続できるように支援する」
この方針のもとで、『自立支援介護』の知識、技術の修得を目指し「あすなろなら安心」と思ってもらえるようなケアマネジメントや事業展開を行っていく。

《将来像》

あすなろの家がセーフティネットとして地域の安心を保証できる施設になっている。
『自立支援介護』『自立支援型ケアマネジメント』が事業所として確立されている。
また、その知識と経験知を地域に対して発信できる事業所になっている。

重点課題《本物のケア、本物の接遇力、本物の繋がり、私たちが》

平成30年度は「人間力」について考えた。その結果、人として魅力ある、求心力のある、さらには相手のことを思い相手のために行動できる人間という一つの答えを打ち出した。
今年度はその「人間力」を上げ、ケアマネージャーとしての資質を向上させることにより、形だけでなく真にご利用者に寄り添うケアマネジメントを実践していくこと、さらにはタイムマネジメントも考えた業務遂行により時間内で質の高いサービスを提供していく。また、本格的に在宅展開する「自立支援介護」を充実させるべく、全ケースの「自立支援型ケアマネジメント」への移行を完了させる。
これまで続けてきた丁寧語、丁寧な対応の継続はもちろん、あめ渡しやお茶出しの際にはさらに「感謝の気持ち」を言葉にのせ、日常の中で当たり前「感謝」を伝えられるようにする。
ファミリーマート出張相談の充実化、S型デイサービスとあすなろの家との関係強化、さらにはあすなろの家の職員全員が地域で活躍できる場を作っていく。なぜ「地域」なのか、この答えを追求しながら地域へ利用者へ、そして職員へ情報発信していく。
あすなろの家の顔である自覚を持ち、「地域」とあすなろの家との関係を自分たちが作っていくという意識で企画立案および実践をしていく。「人間力」を高め、介護保険の根幹でもある「自立支援」のケアマネジメントが実践できるようにし、利用者へ、地域へ、知識と技術を発信していく。

☆挑戦☆

ケアマネージャー自身の「人間力向上」をテーマに掲げ、利用者、ご家族が幸せを感じられるケアマネジメントを追求し実践に繋げていく。また、これまでの地域活動から得た出会い、モノ、経験を活かし、赤ちゃんからお年寄りまで世代を問わない交流機会を作っていく。

6、厨房

《基本方針》

健康の保持と生きるための活力の源である「食べること」を通して、他職種で協力しながら、栄養ケアマネジメントの科学的な根拠を基に、常食化の取り組みを行い、最期まで美味しく口から食べることを支援していく。また、厨房職員はご利用者のことを考え、多様なニーズに対応できる本物の調理技術・専門知識の習得に力を入れていく。

《将来像》

あすなろの家のご利用者・地域のお年寄りのADLの自立（常食化）

→ 食べたいものを食べることできる

栄養・食事相談、料理教室の開催

重点課題

《本物のケア、本物の接遇力、本物の繋がり、私たちが》

「自立支援介護」の常食化を実現するために、厨房職員は食材の選択、切り方、大きさ、硬さ、盛り付け等を常に研究していく。そのために専門知識、専門技術の習得に積極的に努める。

お年寄りの「美味しかったの笑顔」を引き出せるように丁寧な調理、丁寧な盛り付けを心掛け食事摂取に繋げていく。食事を通して、またそこに関わる人を通して、温かい気持ちになり笑顔を増やしていくような食事提供を！

納涼祭、参観会、調理講習会等の行事から「あすなろの食事」について地域に発信していく。また、あすなろメニューのネット配信、あすなろ食堂開店、S型デイお弁当提供を先に見据え厨房独自の取り組みの準備を始めていく。そして地域の方にも食事の大切さ、健康について伝えていく。

私たちが全員常食化を可能にし、最期まで口から食べて頂き、ご利用者の笑顔を引き出す。

☆挑戦☆

- ・「楽しい食事」「笑顔を引き出す食事」をご利用者、地域へ提供
- ・選択メニュー、バイキングメニュー、行事食の実施

2019 年度各事業部目標数値

サービス名	目標利用率
特 養	99%以上(空床日数174日)
ショート	95%以上(19名/日以上)
デイ	85%以上(35名/日以上)
ヘルパー	30ケース/日以上
居 宅	36ケース/1人
ケアハウス	100%以上(空床日数 0日)
厨 房	納入金額・業者の見直し・冷凍野菜の活用

2019 年度各事業部事業計画

	設備	財政基盤強化	人材育成	ケア理論・技術確立	事故・利用者の声	その他
特 養	<ul style="list-style-type: none"> ・臭い対策・整理整頓 ・破損故障対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・算定可能な加算の算定 ・迅速な入所 ・コスト見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価研修システム・キャリアパスに沿った職員育成(各段階別) ・リーダー育成強化(主任面談) ・新人育成のシステム見直し(混乱を招かない様に) ・各G係システム作り、発信できる力をつける 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的介護技術(移乗、排泄、入浴、食事など)見直し、技術統一、向上 ・グループ力強化 ・自立支援介護の知識、技術確立 ・口腔ケアの強化 ・排泄ケア(TENA)強化 ・研修(現場職員) ・アセスメント、モニタリング力をつける 	<ul style="list-style-type: none"> ・接遇、事故研修(同じ認識) ・危険予知研修 ・必要時にはかかわった職員で実況見分を行い事故対策をたてる ・家族への報告(対策まで) 行政へ報告 	<ul style="list-style-type: none"> ・職種間の業務連携確認、修正 ・会議やり方見直し(ケアプラン、事故、褥瘡) ・時間内の業務終了意識強化
シ ョ ー ト	<ul style="list-style-type: none"> ・臭い対策・整理整頓 ・ベッド、車椅子、歩行器 計画 購入 	<ul style="list-style-type: none"> ・算定可能な加算の算定 ・ロングショートを受け入れ ・利用率の安定 ・コスト見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価研修システム・キャリアパスに沿った職員育成(各段階別) ・リーダー育成強化(主任との面談増回) ・新人育成のシステム見直し(混乱を招かない様に) ・在宅の勉強会 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的介護技術(移乗、排泄、入浴、食事など)見直し、技術統一、向上 ・グループ力強化 ・自立支援介護の知識、技術確立 ・口腔ケアの強化 ・研修(現場職員) ・アセスメント、モニタリング力をつける ・自立支援、成果を残す ・介護保険知識 	<ul style="list-style-type: none"> ・接遇、事故研修(同じ認識) ・危険予知研修 ・必要時にはかかわった職員で実況見分を行い事故対策をたてる ・家族への報告(対策まで) 行政へ報告 ・自宅で困っていることなど家族と一緒に相談する 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全運転 ・楽しみの提供 ・時間内の業務終了意識強化
デ イ	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に沿った設備の改修(畳、中庭、などしこ) ・送迎車の整備 ・整理整頓 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用率の安定 ・算定可能な加算の算定 ・コスト見直し ・延長デイアピール ・柔軟なケースの受け入れ ・他部署との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価研修システム・キャリアパスに沿った職員育成(各段階別) ・医療知識研修 ・幹部職員打ち合わせ ・新人職員ケアチェック表 ・主任面談 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的介護技術(移乗、排泄、入浴、食事など)見直し、技術統一、向上 ・自立支援介護の知識、技術確立(内部研修参加) ・特養への食事介助、歩行介助 	<ul style="list-style-type: none"> ・接遇、事故研修(同じ認識) ・朝礼、打ち合わせで事故予防の声かけ ・ミーティングでの原因追及、対応対策検討 ・安全運転 ・家族への報告 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務見直し ・時間内の業務終了意識強化
ヘルパー	<ul style="list-style-type: none"> ・バイク整備 ・備品の補充 ・整理整頓 	<ul style="list-style-type: none"> ・算定可能な加算の算定 ・コスト見直し ・ヘルパー確保 ・体制強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価研修システム・キャリアパスに添った職員育成 ・幹部職員打ち合わせ ・主任面談 	<ul style="list-style-type: none"> ・自立支援介護の知識技術確立 ・基本的介護技術(移乗、排泄、入浴、食事など)見直し、技術統一、向上 ・情報の共有、ケアの統一 ・特養への食事介助 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリ、利用者の声メモ活用、全員チェック ・会議での対応策検討 ・家族への報告 ・安全運転 ・利用者の声への原因追及と対応対策検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・重度化、認知症対応準備 ・生活援助から身体介護への移行 動向注視 ・ヘルパー雇用形態検討 ・時間内の業務終了意識強化

	設備	財政基盤強化	人材育成	ケア理論・技術確立	事故・利用者の声	その他
ケアハウス	<ul style="list-style-type: none"> 居室の設備点検 防災設備点検 部屋の入れ替え時の現状を記録 	<ul style="list-style-type: none"> 食費の返金額、冷暖房加算の見直し 備品、光熱費、行事費見直し、コスト削減 行事費の自己負担額の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> 丁寧な対応 やりがいと力を発揮する場 評価研修システム・キャリアパスに添った職員育成 小さな目標活用 	<ul style="list-style-type: none"> 自立支援介護の習得学習 介護技術 幅広いレベルの入居者に対応できるような援助技術の取得 ご家族との面談の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 事故、利用者の声から学ぶ改善と対応策の取り組み 事故対策の振り返りと見直し、確認 	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民と入居者、地域住民同士の交流の場となる 地域行事への参加 時間内の業務終了意識強化
居宅	<ul style="list-style-type: none"> 自立支援介護実践における必要物品 パソコン、車両 地域活動及び出張相談における必要物品 	<ul style="list-style-type: none"> 減算対象にならない 算定可能な算定の算定 要介護認定調査月平均 15 件 ケース数増減対策 コスト見直し 	<ul style="list-style-type: none"> 研修システム・キャリアパスに沿った自己研鑽(各段階別) ご利用者本位を考えられるケアマネージャー ケアマネ会議で事例検討 一体的支援 	<ul style="list-style-type: none"> 「自立支援介護」「自立支援型ケアマネジメント」の知識取得 要介護状態の重度化に対応した認知症ケア 素直、謙虚な姿勢で事業所とチームで取り組む チームケアの浸透 「業務マニュアル」の見直しと活用 「地域包括ケアシステム」の理解と実践 	<ul style="list-style-type: none"> ヒヤリハットから読み取れる事故を精査し対応策を図る 対策を振り返り実践できているかどうか確認する ヒヤリハット、利用者の声を毎週確認 連絡ミス等流さずきちんと報告 	<ul style="list-style-type: none"> あすなる通信 地域包括ケア S型デイ、ミニ講演会への職員派遣 金融機関、スーパーコンビニの待合室相談、出張相談 S型デイスタッフ懇談会 セーフティネットとしての役割認識、支援が難しいケースも積極的に受け入れる 和出張相談 時間内の業務終了意識強化
厨房	<ul style="list-style-type: none"> 厨房設備や機器、食器等の劣化への対応 費用、作業効率を検討しながら購入や修理を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 納入業者、納入価格の見直し 給食費の値上げ検討 コスト見直し→職員による食材等の買出し 冷凍野菜の活用 地産地消(あすなる畑) 節電(食器洗浄機、食器保管庫) 補助食品個人購入 	<ul style="list-style-type: none"> 評価研修システム・キャリアパスに添った職員育成 幹部職員育成・外部内部研修・評価シート・面談 調理員の献立作成 栄養士教育 丁寧な対応 「給食だより」の発行 小さな目標の活用 チェック表の活用(献立、清掃) 打ち合わせ(12:50～) 調理師免許取得 	<ul style="list-style-type: none"> 調理技術の確立(統一された調理方法) 専門知識習得 自立支援介護(常食化) 衛生管理 <ul style="list-style-type: none"> HACCPの取り組み 大量調理施設衛生管理マニュアルに基づく衛生管理点検表の活用 保菌検査、衛生検査 清掃、公衆衛生委員会 嗜好調査 	<ul style="list-style-type: none"> 他部署との連携 ヒヤリ、事故報告書の活用→意識→向上 打ち合わせ(ヒヤリ、事故防止) 	<ul style="list-style-type: none"> 直営給食の継続 地域へ(食事会、料理教室、栄養指導) 厨房給食だより S型見学 時間内の業務終了意識強化

